よきおとずれ
CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

発行所　カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人　大水文隆
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869 FAX095(843)3417
郵便振替番号01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所　株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL095(821)2146 FAX095(821)2148

みことばとともに

信仰の道をわたしは選び取りました　あなたの裁きにかなうものとなりますように。
詩編119編30節

信仰年開年ミサ

◇10月11日（木）
19:00　中町教会
◇10月14日（日）
9:00　福江教会
14:00　浦上教会　相浦教会
平戸教会　青方教会

信仰年を迎えるにあたって

大司教　ヨセフ　髙見三明

第2バチカン公会議開会式
1962年10月11日

わたしは、今年の復活教書で「信仰年」に関していくつかの提言をしましたが、「信仰年」を間近にひかえた今、全般的なことを述べたいと思います。

1 「信仰年」開催の告示

2011年10月16日（日）、ベネディクト16世教皇は、聖ペトロ大聖堂で行われた教皇庁新福音化推進評議会主催第1回国際会議閉会ミサの説教の中で、「信仰年」を開催する旨を告げられました。それは、第2バチカン公会議開会50周年および『カトリック教会のカテキズム』発布20周年記念日に当たる12年10月11日から13年11月24日（王であるキリスト）までの13カ月余にわたるものです。

翌10月17日（月）、教皇は自発教令『信仰の門』（10月11日付）を発布して、「信仰年」開催の趣旨を説明されると同時に、「信仰年」を有意義に過ごすための指針を作成するよう、教理省に命じられました。そこで教理省は、12年1月6日、覚え書き『「信仰年」のための司牧的指示』を発表しました。

2 「信仰年」の趣旨

教皇は、この信仰年の間「信仰」を再発見すること、そのために第2バチカン公会議の教えを理解し、『カトリック教会のカテキズム』を学ぶこと、人々を信仰の門へ導くよう求めておられます。

(1) 信仰が公然と否定される今、キリストへの信仰のすばらしさを再び味わう。わたしたちが信条で告白し、典礼において記念し、生活の中で生き、日々祈る「信仰の内容」を再発見し、キリストを「信じること」について考察する。

(2) 第2バチカン公会議文書を読み、理解し、消化吸収する

公会議を召集されたヨハネ23世教皇は、公会議の主要目的として、①教会が教えと生活の両面で、本来あるべき姿を深く自覚し、自らを刷新すること、②福音を現代世界の人々に喜んで受け入れてもらえるように告げること、を挙げられました。第1会期の教父（司教）たちも、「わたしたちは、この集会において、キリストの福音に忠実であるためには、どのようにわたしたち自身を刷新しなければならないか、その道を聖霊の導きのもとに見いだそうとしています。人々が神の真理を理解し、喜んでそれを受け入れるように、それを傷つけることなく完全に現代の人々に伝える方法を研究しようとしています」（1962年10月20日）と述べています。後継者のパウロ6世教皇が挙げられた公会議の4つの目標（①教会の自覚、②刷新、③すべてのキリスト者間の一致の回復、④わたしたちの時代の人々と教会との対話）も、結局上記の2点につづめられます。

これらの目的は、「教会の基本的な方向づけ」をも表しています。65年12月8日まで4会期にわたって開催された公会議は、これらの目的に沿って、典礼、教会、啓示、現代世界における教会に関する4つの憲章、『教会の宣教活動に関する教令』ほか9つの教令、『信教の自由に関する宣言』ほか3つの宣言、合計16の文書を発表しました。

これら公会議文書に示されたことがらを具体的に実施するために、世界代表司教会議（シノドス）が開催され、教皇文書や教皇庁文書が相次いで発布されてきました。しかし、わたしたちの間で公会議文書はどれだけ読まれ、消化吸収されているでしょうか。公会議文書は、重要な規範文書として知られ、聖なる伝承の中で、適切に読まれ、消化吸収される必要があります。そして、わたしたちに今後進むべき方向性を与える確実な羅針盤なのです。ですから、それらを正しく解釈し、実施するなら、教会の刷新のために力となることができるのです（『信仰の門』5参照）。

(3)『カトリック教会のカテキズム』を学んで信仰を深める

『カトリック教会のカテキズム』は、1985年のシノドスによって「信仰教育に役立つ道具として求められ」、92年10月11日、ヨハネ・パウロ2世教皇によって「信仰の力のすばらしさをすべての信者に示すために」「教会のために役立つ権威ある道具、また信仰を教えるための確実な規範として」発布されました（同4、11）。わたしたちは、この要理書の中にまとめられた信仰の根本的内容を体系的に学び、再発見するよう努力しなければなりません（同11）。

3 「信仰年」の過ごし方

教理省の覚え書きは、全教会のレベル、各国司教協議会レベル、教区レベル、小教区・諸共同体・キリスト信者の会・諸運動体レベルで信仰年に取り組むための示唆を与えています。長崎教区としては、次のようなことを提言します。

(1)「信仰年」を教区代表者会議と信徒発見150周年に向けた歩みの中で過ごす。その際、アンケートの結果を参考にする。

(2) 信仰宣言として「ニケア・コンスタンチノープル信条」を唱える。

(3)『よきおとずれ』などで、公会議文書とカテキズムに触れる機会をつくる。

(4) 教区の信仰養成部、福音化推進部、教会奉仕者等養成部、各地区、各小教区、各修道院、各共同体、各家庭でそれぞれ信仰年の趣旨に沿った独自の取り組みを行う。

大村の殉教者

羊を捜し続けた司祭たち

最初のキリシタン大名大村純忠の庇護の下、大村領ではキリスト教が栄えた。1582年には、信者は7万人、教会は34あったと記録されている。

しかし87年の純忠の死と伴天連追放令により、迫害の手は大村にも及ぶことになる。1617年、フランシスコ会のペトロ神父とイエズス会のマチヤード神父が捕らえられ、5月22日、郡（こおり）（大村市）にある小高い丘で処刑された。これが大村領での最初の殉教である。

彼らの死に動揺した多くのキリシタンたちは、信仰を棄てていった。その様子に深く心を痛めた2人の司祭、ドミニコ会のナウァレト神父とアウグスチノ会のエルナンド神父は、消えかけた信者たちの信仰を再び燃え立たせるために、進んで捕らえられ、殉教の姿を見せることを決意する。

「良い羊飼いは、羊のために命を捨てる」（ヨハネ10・11）

彼らの屋外での説教と野外ミサは、信仰を取り戻させただけでなく、「信仰の門」への招きともなった。ペトロ神父とマチヤード神父を処刑した奉行の朝長次郎兵衛（ともながじろうびょうえ）もその一人である。

このような状況を見過ごせなくなった領主大村純頼は、2人の司祭を捕らえ処刑することにした。彼らは長与（西彼杵郡長与町）で捕らえられたが、役人のほとんどがキリスト信者だったので、縄をかける代わりに、「神父様、どうか私の罪をゆるしてください」とひざまずく者もいたという。処刑は6月1日、無人島の鷹島で行われた。彼らを慕って多くの信者がついて来たからである。二〇五福者に数えられる彼らの模範は、信仰を失いかけていた大村の信者たちを目覚めさせることとなった。

1657年、郡村で村民みんなが信者であることが発覚し、608人が捕らえられた。この迫害は「郡崩れ」と呼ばれる。そのうち、大村の放虎原で131人、長崎で123人、平戸で64人、島原で56人、佐賀で37人が、58年7月27日、それぞれの場所で殉教した。郡崩れの後、取り締まりがいっそう厳しくなり、大村付近には信者がいなくなった。しかし、大村領外海地域の信者たちは、五島をはじめ県内各地に移住し、密かに信仰を守り伝えていった。

（まるちれす研究会『ガリラヤへ』『まるちれす』参照）

大村殉教祭

土地の召命・わたしの召命

― 肥沃（ひよく）な土地をなぜ涸らすのか ―

9月2日（日）大村市民会館において、第37回大村殉教祭が約750人の参列者のもとに行われた。

殉教について学ぶことに重点を置いた今年のプログラムでは、ミサに先立って古巣馨神父（大司教館）の講演会「土地の召命・わたしの召命」が行われた。

「大村は召命にとって特別な場所」（**下段「講演会案内」参照**）と語った古巣神父は、大村と所縁ある殉教者や出来事を紹介しながら、「わたしの信仰は誰を通ってきたのでしょうか」と問い掛けた。

講演会に参加した子供連れの若い母親は、「召命は各々がもって生まれた道。講演を聞いて、神様に心を向けることの大切さを子供たちに伝えなければならないと再確認できた」と感想を述べた。

高見三明大司教司式による殉教記念ミサの後、植松教会主催の放虎原（ほうこばる）巡礼が行われ、約120人が共に祈りをささげた。

講演会案内より　〝そのために呼ばれ、そのことのために選ばれた〟役割を、教会は召命と呼んでいます。この召命には、「個人の召命」と、ある歴史を背負った「土地の召命」があります。

大村は日本の教会の歴史の中で、特別な召命を担ってきた土地です。この地に蒔かれた福音の種は逞しく成長し、多くの司祭・修道者・カテキスタを輩出し、日本中に派遣していきます。大村は日本の教会のゆりかごとして、豊かな信仰を育んだ土地です。殉教時代に入っても、証しの場として大切な役割を担います。それがこの土地独自の体験、この町に刻まれた信仰の原風景です。本当に肥沃な土地でした。

歴史に刻まれた独自の使命を伝え、今も生きている限りにおいて、その土地はかけがえのない豊かさをもっています。しかし、伝えることを忘れ、伝えるものをなくしてしまった土地は疲弊し、どんなに物は溢れ雄弁な理屈をこねても、人々の心はざらつき精神的な貧困は深刻さを増していきます。信仰の肥沃な土地が、今、涸れかけています。

大村というこの土地は、どんな召命を担ってきたのでしょうか。そして、そこに生きるわたしはどんな召命に招かれているのでしょうか。土地も教会もわたしたち一人一人も、招かれた召命に精一杯応えるときが、一番躍動的で自然なのです。信仰の歴史に向き合うことは、わたしの明日を探すことです。

信仰年連載企画
長崎はなぜ長崎を棄てるのか ①

あなたが立ち直ったら

― ともに、信仰の門をくぐるために ―

長崎教区司祭　古巣　馨

愚直な司祭の死に向き合えば

〝主は倒れようとする人をひとりひとり支え　うずくまっている人を起こしてくださいます〟（詩編145・14）。最後にこのみ言葉を選んだ中島健二神父様が、御父の懐に帰られてからもう1年になります。「188人の福者が聖人になるためには、奇跡が一つ必要だったよね。おこがましいけど、わたしをそのために使ってくれないかな。」この言葉で、「しるし」を生きる最期の1年は始まりました。ターミナル病棟に入って読み続けていたのは『キリシタン時代の日本人司祭』でした。どんな境遇の中でも信者たちに最期まで仕えた日本人司祭と、時を越えて向き合おうとしたのでしょうか。

山田茂八という中島神父様の祖父は、浦上から島原に移り、かつて先祖たちが信仰を証しした島原城の二の丸を買い取り、教会を建てた浦上の切れ者です。まるでその血筋にスイッチが入ったような最後の日々でした。

殉教した日本人司祭に向き合うことは、以前から見続けてきたキリストの死に再び向き合うことでもありました。その思いと霊性はすぐに形になります。ターミナル病棟のスタッフの一員であるかのように、毎日聖体を配り患者の手を握って励まし、悩みを聞き、務めを終えた仲間を真夜中でも、明け方でも最期まで看取り、家族と一緒に泣きながら見送っていました。「できるだけ後悔することのない司祭職を生きたい。」自らに課したこの牧者の務めは、酸素吸引の管とモルヒネの注入器を車椅子にのせ、亡くなる3日前まで続けられました。

「受け入れるのがこんなに難しいとは思わなかったな。受け入れきらんば、満足に捧げきれんとさね。捧げることができんば、心から感謝することはもっとできんとさね。わたしのために祈ってね。間もなくだから」

亡くなる8日前、病室の天井を見つめながら独り言のように、わたしにささやいた言葉です。受け入れること、捧げること、すべてを感謝すること。気づけば、それは殉教者が求めた道でした。

188殉教者を聖人の位に挙げるための癒やしの「しるし」を確認することはできませんでした。しかし、愚直な一人の司祭の死を通して、わたしたちは大きなしるしを見ました。それは、長崎教区が久しぶりに心を一つにして本気で祈ったことです。あれほど目立つことの嫌いな司祭が、最後に自分をさらしものにし、「皆で祈ってください」と懇願したのは、長崎の教会が長崎の信仰を棄てていくのを食い止めたいとの一念でした。家族で、親子で、一緒に朝晩の祈りをすることを無くしてきた教会が、もう一度、祈りの生活と信者としての務めを取り戻すことができるように。さまざまな不信や混乱の中で、ばらばらになったこの教区が、祈ることで一つになるように。これが、36年間長崎の教会で牧者として務めてきた中島神父様の危機感でした。

教会が次の時代に踏み出すとき、不可欠なのは人心の刷新と、「一つの思い」です。自らをさらしものにし、愚直なまでに願い続けた司祭の死は、わたしたちに何を問い掛けているのでしょうか。

何があったのですか

キリスト教を根絶やしにしようと、徳川幕府が250年間知恵を絞ってもなし得なかったこと、明治政府も似たような施策によって排除しようとしたにもかかわらずなし得なかったことを、戦後65年、特にこの30年近くの間に、誰からも禁じられず、抑圧も排斥もされないのに、「伝えられなくなった教会の姿」を、今わたしたちは目の当たりにしています。

「公方様、忠興様が何と仰せられようとも、わたしどもには譲れないものがあるのでございます」（福者ディエゴ加賀山隼人）と公言し、世の知恵や、人の思いに逆らいながら、どんな時代にも、どんなに貧しくても、ぶれることなく信仰を受け渡してきた教会。しかし今、家庭から祈りの声が途絶え、日曜日のミサに集まって感謝する仲間の数は減り、教会で結婚式をしない信者の若者たち、司祭・修道者の召命の減少に歯止めがかかりません。教会の批判はするけれども、一緒に学び、人知れずそっと支え合い、共に泣いたり、笑ったりする信者の絆は薄れました。「面白さ」と「損得勘定」と「何でもあり」の世相の中で、今カトリック信者として生きる意味を見いだせない、信仰を喪失した多くの仲間が溢れてきていることを、正直に認めなければなりません。

誰が来ても同じ、司教が変わっても、主任司祭が変わっても、黙想会や研修会をしても何も変わらない。白けた空気が漂い始めて久しくなります。「もう教会の務めは終わったとでしょうか。キリストの教えはもう人の救いにはならんとでしょうか。もう何の宗教でもよかとでしょうか」かつての教会の顧問さんの呟きは、切々たる祈りです。

〝何があったのですか〟（ルカ24・17）。伝えることができなくなった長崎の教会をよそに、世の中は「教会は世界遺産だ」と笛を吹きます。皮肉でしょうか、それとも問い掛けでしょうか。わたしたちの中でいったい何が起きているのでしょうか。

長崎の教会はいったい何を棄て、何を置き去りにし、その代わりに何を得てきたのでしょうか。

あなたが立ち直ったら

「わが子よ、このふるさとの話を聞いて何を感じるか。そなたたちが、お母さんから受けた血は、どんなものであったのか。世間ではよく、浦上は迫害で有名だと言っているが、しかし、迫害があったのは何も浦上だけではない。浦上が本当に有名なのは、迫害されてもよく立ち直ってきたからだ。倒れても、倒れても立ち上がってきたからだ。そなたたちの先祖は、あのように粘り強く、教会と信仰を立て直してきた。そのことを片時も忘れるな」（永井隆著『いとし子よ』）。

どんなに貧しくても、伝えるものを持っている家は豊かです。差し出す希望を持っているからです。何度も立ち直ってきた長崎の教会。死の淵から生き返ってきた信仰、これが長崎の受け継いだ希望の道です。〝わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟を力づけてやりなさい〟（ルカ22・32）。長崎はこのみ言葉を何度も体験し、励まされてきた教会です。

「『信仰の門』はつねにわたしたちに開かれています。」この言葉をもって教皇様はわたしたちを信仰年に招きました。「信仰年において決定的に重要なことは、信仰の歴史をたどり直すことです。……信仰の歴史ははかりしれない神秘によって特徴づけられているからです」（『信仰の門』13）。

長崎は世界に類を見ないほどに、人の目には不思議な歴史を刻んできた教会です。福音との出会いも、信仰ゆえの迫害も殉教も潜伏も、そして「恵みの時」の信仰告白も、すべては信仰の門をくぐる出来事です。その門をくぐってきた人たちは口をそろえて言います。「信仰によって従いました」（同13）。気づいたら日々の暮らしの一つ一つが、「信仰によって」という枕詞で営まれ、紡ぎ出されていたのです。「信仰をとったら、わたしらには何も残らんとです」と公言してはばからない人たち、長崎の教会はこうして独自の信仰の感覚を育ててきました。

信仰によって

信仰によって、長崎の教会は家庭の中で祈りを絶やすことなく、夫と妻、親と子、兄弟同士の絆を結んできました。信仰によって、長崎の教会は多くの子どもたちを授かり、「一番よいものは神様のために」を合言葉に、多くの神学生、修道志願生を捧げてきました。信仰によって、長崎の教会は「祝日表」と呼ばれた典礼暦をめくりながら、主の日を一番に選び「一張羅の信仰」を受け継いできました。信仰によって、長崎の教会は「マルチレスの所に行こう」を合言葉に、毎年殉教地を詣で、先祖を記念し、受け渡されてきた信仰を確かめてきました。信仰によって、長崎の教会は教え方（カテキスタ）を育て、時代に即した要理書（カテキズモ）を編み、子どもや大人の「けいこ」を、欠くことのできない教会の務めとしてきました。信仰によって、長崎の司祭たちは、散らされ、傷ついた羊をいとおしみ、社会のうめきに寄り添い、祈りのうちに自分を召されたお方の心をいつも確かめてきました。

これから1年間にわたり、「信仰によって」起こされた長崎の教会と向き合い、見つめ直し、一緒に信仰の門を訪ねましょう。

信仰の門をくぐったとき、そこで出会うのは「信仰の創始者また完成者」（ヘブライ12・2）であるイエス・キリストご自身です。その方は、立ち往生した弟子たちに告げます。「ガリラヤへ行きなさい。そこで会うことになる」（マタイ28・10）。原風景を訪ねるのは、再び派遣していただくためです。キリストからの再出発なしに、人も教会も未来はありません。

再び家庭を振り返る ⑦

教区家庭特別委員会　山口　竜太郎

お盆と正月。ふだんは静かな五島が盛り上がる時です。船の臨時ダイヤが組まれ、高速船は増便されます。里帰りの理由はさまざまです。親に顔を見せ、親の顔を見、古い友人と語り合う・・・。落ち着く場所と時間がそこにあるから、大変な思いをしても故郷へと帰ってくるのだろうと思います。

教皇ヨハネ・パウロ2世は使徒的勧告『家庭』の中で「家庭よ、本来の姿になりなさい」と呼びかけています。「神の計画において、家庭は生命と愛の深い共同体として作られている」のであるから「愛を守り、表し、伝える使命を持っています」（『家庭』17）として、4つの使命を挙げています。

① 人間共同体を作ること。
② 生命に仕えること。
③ 社会の発展に参加すること。
④ 教会の生命と使命を分かち合うこと。

多くの親としての心配や悩みは主に④の事柄に関することであると耳にします。

「信者としてしっかり生きているのか？」

「祈りはしているのか？」

「孫たちの信仰教育をしているのか？」

しかし、放蕩息子の父親、すなわち天の御父がそうであったように、子どもの気づきと立ち返りを待つことが親の役割なのかもしれません。帰ってきたらしっかり抱きしめてあげる。失敗や裏切りを繰り返すかもしれない。それでも抱きしめてあげる。キリストを信じ、聖霊に照らされているからこそ、御父の大いなる愛に私たちは触れることができ、真の幸せを目指せるのです。

墓地・納骨堂　分譲中
高尾・本原・石神・江平・坂本 他
現地ご案内致します

ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　博明
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル
☎(095)862-2469

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦　幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

当社オリジナル商品
一筆箋（教会編）定価350円（税込）
各種印刷物のお見積もり無料です。お気軽にご相談下さい。
九州印刷株式会社
代表取締役社長 トマス　川原　保夫
〒852-8103 長崎市緑町4-5
TEL(095)846-6844　FAX(095)846-6845

マイホームの美容と健康に！
(有) 山川 塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　マリア　大島睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

正義と平和全国集会 2012長崎大会に向けて

カトリック正義と平和全国集会・長崎大会（長崎大司教区主催）は、10月6日から8日まで、カトリックセンター、大司教館、浦上教会を会場に開催される。県外から200人、全体で300人の参加が見込まれる。

今年の全国集会のテーマは「『正義と平和』の原点を探る」。カトリックにおける正義と平和とは何なのか、そして、なぜ教会は社会問題にかかわるのかを解き明かすことを目的としている。この全国集会は、ほぼ毎年、場所を移動しながら各司教区の主催で開催されており、長崎での開催は3回目。

目玉の一つは基調講演（1日目）で、講師は南山大学教授のマイケル・シーゲル師（神言修道会）。全国集会のテーマについて「愛は個人関係においてだけではなく、社会関係においても、キリスト者の使命」との視点からお話しいただく。

もう一つの目玉は社会司教委員会シンポジウム（2日目）。『なぜ教会は社会問題にかかわるのかQ&A』の出版記念企画として位置づけられた、司教によるシンポジウム。「社会のただ中で信仰をどう生きたらいいのかを考えるきっかけになれば」と、担当司教たちは熱い思いで臨む。

開催に当たっては、平和推進委員会と教区評議会を中心とする実行委員会を立ち上げ、信徒、信徒でない一般人と司祭・修道者が一緒に手作りで準備を進めてきた。しかも、それぞれの仕事で忙しい中、少しずつ時間を出し合って作り上げてきた。

なお、シンポジウムは申し込み不要・当日無料で入場できるので、ぜひご参加を。乞うご期待。

（教区平和推進委員会）

岩村知彦実行委員長を中心に準備が進められている。写真は第4回実行委員会の様子。（7/15・大司教館）

巡回教会めぐり ⑱

出津小教区 大瀬戸教会 信徒の奉仕作業で難工事乗り越え

大瀬戸教会は、出津教会から約15km北上した大瀬戸旧役場庁舎裏の高台に建っている。

1956（昭和31）年深堀政美主任神父の時代に、当時墓地や畑として使われていた土地を買収し、大瀬戸教会敷地造成が始まった。途中、台風や豪雨により、2回にわたって崖や石垣決壊などの大被害を受ける難工事であったが、出津の信徒は地区交替でバスを貸し切り、あるいは船に乗って大瀬戸まで奉仕作業に出て、教会建設のために汗を流した。

教会完成は67（昭和42）年4月29日、使徒聖パウロを保護者として、山口愛次郎大司教によって祝別された。

現在、10戸20人の信徒数。毎週日曜日にはミサが行われている。

（出津教会・山田幸男）

出津小教区 大野教会 ド・ロさまの息遣いを感じる教会

大野教会は、外海地方の中心地出津から約4km北上した、五島灘を望む大野郷の山あいの中腹にある。

同教会は、神浦と大野の信者26戸が、老弱などのため出津まで出向くのに困難を来すことから、1893（明治26）年にド・ロ神父によって建設されたもので、同年10月、ロザリオの聖母を保護者としてクザン司教によって祝別された。

設計および施工指導はド・ロ神父自身であり、神父の自費と信者の奉仕によって完成したものである。建設費用は約千円といわれる。建物のほぼ四方を廻る壁は、地元産の玄武岩を積み上げてつくられた「ド・ロ壁」である。現在、国の重要文化財に指定。

毎年10月の第1日曜日にミサが行われている。

（出津教会・山田幸男）

出津小教区 牧野教会 小さな教会が伝える信仰の形

出津教会より北東の山あいに約2km、道路沿いの小高い丘の上に牧野教会が建っている。車だと見過ごしてしまうくらいの小さな教会である。

1921（大正10）年から75（昭和50）年までは牧野修院と呼ばれ、旧女部屋の独身婦人らの祈祷所・修道生活の場となっていた。当時、出津教会まで通うことのできない地区の老人や病人の便宜のために礼拝所が建てられた。これが牧野教会の前身である。

81（昭和56）年、住人がいなくなっていたこれまでの修院を解体し、地区の信徒たちが新たな礼拝所として現牧野教会を建て、同年12月に当時の浜口末男助任神父（現・大分教区司教）によって祝別された。

現在、毎月1回、初木曜日の早朝にミサが行われ、牧野地区30戸の信徒の信仰のよりどころとなっている。

（出津教会・山田幸男）

「償いと感謝の聖地」十字架山で祈る

9月9日、長崎市辻町の十字架山では、浦上教会の山添克明、大水 満両師共同司式のもと、殉教記念ミサが行われた。

山添神父は説教の中で、命を懸けて信仰を守り伝えた浦上の先祖たちについて触れ、「与えられた尊い信仰、尊い命。私たちなりの殉教がこの世の中であるのではないか」と語り、殉教者の取り次ぎによって信仰を証しすることができるよう祈りを呼び掛けた。

また、この日は金沢市にある卯辰山長崎殉教者碑前でも、野村純一司教（名古屋教区）司式により、浦上信徒をしのんでミサがささげられた。

★★★

十字架山　1873年、「旅」から帰ってきた浦上信徒たちは、かつて絵踏みをさせられていた庄屋屋敷を買い取り、償いとしてその場所に「神の家」を建てようとした。しかし、旅から帰ってきた彼らには、その場所を買い取るだけで精一杯であった。その後30年間、生活費の一部を献金し、労働奉仕をし、1914年、大聖堂を完成させた。

浦上信徒の償いはそれだけではなかった。信仰の自由を喜ぶ一方で、絵踏みの罪を思い苦悩する彼らの心情を理解していたプトー神父（第2代浦上主任）は、キリストの受難の丘に「十字架を建て、償いと感謝の聖地にしよう」と提案。信徒たちは競って労働奉仕に出た。1メートル角の台石は、全村から選び抜かれた屈強な男たちが、7日間を費やして1キロ離れた石神郷の石切場から山頂に運び上げた。3段の礎石の上に木製の十字架が建てられ、1881年9月14日、十字架称賛の祝日をもって創設の日とした。

信者たちはこの場所に集い、絵踏みの罪の償いと神への感謝だけでなく、為政者・意に反して迫害に加担した人々のゆるしのためにも祈った。

十字架山は、神の恵みの大きさを思い、人間の弱さのすべてをささげる先祖たちの奉献であり、子孫への信仰の遺産である。（「浦上教会リーフレット」参照）

福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭

9月16日、福者カミロ・コンスタンツォ神父の遺徳をたたえる記念ミサが田平教会で行われ、高見三明大司教と平戸地区司祭団の共同司式のもと、平戸地区信徒を中心に200余人が集まり祈りをささげた。

説教の中で高見大司教は「信仰生活において祈り、学ぶことは大切であるが、さらに行いが伴うことによって私たちの信仰はより豊かなものになっていく」と語り、キリストの「わたしの後に従いたい者は自分の十字架を背負ってわたしに従いなさい」（マルコ8・34）との言葉を紹介した。

今年は台風の影響で焼罪史跡公園での開催がかなわず、「天候によることではあるが、できれば殉教地でのミサがあってほしい」との声も聞かれた。

コンスタンツォ神父はイエズス会の司祭で平戸や生月で宣教を行っていたが、1622年焼罪で火刑により殉教した。

司教が語る なぜ教会は社会問題にかかわるのか

「なぜ教会は社会問題にかかわるのか Q&A」出版記念シンポジウム

【日時】2012年10月7日（日）　10時45分～12時30分
〈正義と平和協議会全国大会　長崎大会プログラム〉

【場所】カトリック浦上教会

【内容】挨拶　◇髙見三明大司教
導入　◇ホアン・マシア神父（イエズス会）
発題　◇松浦悟郎司教「なぜ教会は社会問題にかかわるのか」
◇幸田和生司教「原発と基地
～なぜキリスト者として看過できないのか～」
司会　◇谷大二司教

＊参加費無料・お申し込み不要

【主催】日本カトリック司教協議会　社会司教委員会

ぶどう園

▼131回クルシリヨ　10月5日(金)～8日(月)　相浦教会
問合先・宮崎美和子
TEL095-879-5102

▼島原・天草殉教福者記念の集い『信仰によって従うものとなりました』　10月7日(日)13時～15時　有馬川殉教記念碑前（南島原市・北有馬庁舎向かい）
問合先・島原教会
TEL0957-62-2952

▼日本二十六聖人列聖150年記念・東日本大震災チャリティー「ブレスト・サクラメント大聖堂合唱団・オーケストラ長崎公演」　10月8日(月)14時　浦上教会　千円　チケット発売所・浜屋プレイガイド、日本二十六聖人記念館、カトリックセンター他　主催・アジェンダNOVAながさき、浦上教会
問合先・アジェンダNOVAながさき
TEL095-842-1111

▼イエズス会立山修道院お知らせ　●祈りの一日　①10月15日(月)　②10月29日(月)　③11月6日(火)　④11月12日(月)　10時～15時半　●祈りの日々　①10月6日(土)～8日(月)　②10月20日(土)～21日(日)　③11月2日(金)～4日(日)　初日17時～最終日15時
TEL095-821-4577

▼第8回召命祈願ミサ　10月26日(金)19時　大浦天主堂

▼牢屋の窄殉教記念祭　10月28日(日)13時　牢屋の窄（五島市久賀島）

▼第13回枯松神社祭　11月3日(土)13時　黒崎枯松神社境内

▼教区主催「死者の月・追悼ミサ」　11月4日(日)15時　浦上教会

香典返し

長崎カトリック神学院
●桃田照雄様（浅子）
故ヨゼフ桃田常雄様

右の方から、神学生養成などのために香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

大槌ベースから現状と要望

地元と連携した継続的支援のために

仮設商店街でのイベントにて　8/25

岩手県上閉伊郡大槌町にある長崎教会管区のボランティア拠点「大槌ベースキャンプ」。この夏、休みなどを利用して多くのボランティアが訪れ、さまざまな支援活動を行った。

継続的な支援活動にはボランティアの協力が不可欠だが、9月中旬からその数は激減。さらに、長期にわたって被災地に常駐するスタッフの肉体的、精神的な負担が危惧される。ベースの現状と要望について、ベース長の古木眞理一神父（長崎教区本部事務局次長）に話を聞いた。

―スタッフやボランティアの体制は

常駐スタッフは6人（古木師含む）。これまでの登録ボランティアが765人で延べ4000人余の人々が協力している。

―主な活動内容は

現在は、間伐材のまき割りなどの重労働があり、草刈りも膨大な量がある。仮設住宅でのお茶っこサロンは定期的に続ける。「お茶っこ」を楽しみに待っている方がたくさんいて、地元の人々から元気な声が聞かれるようになった。でも、仮設から出てこない孤立した人もいる。仮設から出てきやすい環境づくりを目指している。

―優先すべきことは

とにかく、人々が生き生きとなり自分たちで率先して行動していくよう、そのための場を設けるお手伝いをしていくこと。

―長崎教区評議会が提案している、ボランティアの長期にわたる継続派遣について

ベースを運営する上で、そして常駐スタッフが現在の活動を続けていく上での大きな支えになる。スタッフは日々、支援活動を行うと同時にさまざまな活動をこなしていて、体力的にきつい状態にあるので。

―要望がありましたら

仮設周辺に子供たちの遊び場や公園をつくりたいとする地元の人々と、その計画を立てている。子供たちの教育、健康に配慮する人々の活動のために、今後また支援をお願いしたいと思う。

悲しみに寄り添う神に信頼して

高木慶子修道女を招いて講演会

佐世保地区連合婦人会は、9月2日（日）午後1時、援助修道会の高木慶子修道女をアルカスSASEBOに迎え、「神さまは、必ず私たちを、守り、救ってくださる」と題して講演会を行った。

聴講者約320人を前に、講師は「グリーフ（悲嘆）ケア」について、自身が経験したターミナルケア（死期のせまった人のケア）や震災後のケアの具体的事例を用いて話した。

涙あり笑いありの講演を聞いた人たちからは、「どんな悪人も痛悔の心を持って、悔い改め信じれば天国に行けると言われ、こんな自分でも救われると思いほっとした」「今日参加して良かった。死は無ではないし、天国で必ず会えると信じている私は、救われる」「今、苦しんでいる友人にケアをするタイミングを頂いた」との声が聞かれ、盛況のうちに閉会した。

ゆるしの秘跡は愛の告白の場

白浜満師による公開典礼講座

9月16日、教区典礼委員会（平本義和委員長）は日本カトリック神学院院長の白浜 満師を講師に招き、「ゆるしの秘跡」をテーマにした公開典礼講座をカトリックセンターで開催、約350人が聴講した。

白浜師は始めに、自分の中で「ゆるせない」と思っていることがないか、ゆるせないでいる自分にまず気付くことを導入に、回心の目的は、愛に基づく立ち帰りと和解（神・共同体・自分との和解）であると語った。そして、ゆるしの秘跡は愛の告白の場であること、罪のゆるしの源は三位一体の神の無償の愛であることを強調した。また休憩を挟んで、共同回心式（ゆるしの秘跡を受けるために大勢の回心者が集まる場合行われるもの）についての説明があり、その後、質疑応答があった。

各種公開講座に度々参加しているという女性信徒は「難しいけど興味深いテーマでもあり、ぜひ聴きたかった。イエスさまがくださった愛の心がやはり原点なのだと思いました」と感想を語った。

カトリックセンターにて映画「エンディングノート」上映

SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）が毎年選定する日本カトリック映画賞。その2011年度受賞作品「エンディングノート」が11月23日（金）11時と14時の2回、カトリックセンターで上映される。上映時間90分。

末期がんの父親が亡くなるまでを、娘である砂田麻美監督が自ら撮影し編集したドキュメンタリー映画。大人700円、シニア・小～大学生500円。主催・問合先はカトリックセンター（TEL095-846-4246）。後援・教区広報委員会。

信仰年によせて

～聖母マリアとともに祈る～

日時　2012年10月27日（土）13:30～16:30
会場　カトリックセンター2階　大ホール
講師　山口雅稔神父
　　コンベンツアル聖フランシスコ修道会
　　けがれなき聖母の騎士会 日本国内霊的補佐司祭
内容　講話・祈り・ミサ
　　＊入場無料＊　どなたでも参加できます。

主催：けがれなき聖母の騎士会　後援：カトリック長崎大司教区
協賛：コンベンツアル聖フランシスコ修道会、聖母の騎士社

問合先 095-825-2075（納富まで）火・木・土10時～17時

みことばにふれて 89

谷脇誠一郎神父（長崎カトリック神学院）

「母はこれらのことをすべて心に納めていた。」（ルカ2章51節）

小学生の頃、私の出身教会では、聖母月とロザリオの月に子供たちはみんな教会に集い、毎日ロザリオを唱える習慣がありました。子供たちは、ロザリオが始まる1時間も2時間も前に教会にやって来ます。それはもちろんみんなで遊ぶためです。ボール遊びをしたり、鬼ごっこやかくれんぼをしたり、木に登ったり。

ロザリオの時間になると青年会のお姉さんが鐘を鳴らし「早く、聖堂に入りなさい」と子供たちに呼びかけます。聖堂に入ると、70人分の子供の汗と靴下の臭いが充満します。それなのに子供たちはなぜかくっついて座ります。その頃はまだ椅子が無く正座をして祈っていたので、足がしびれてきます。先唱は男子と女子が交代で行い、どっちが大きな声を出すかを競います。鐘の音、汗の臭い、足のしびれ、今となっては懐かしく感じます。その隣にはいつも兄弟や友達がいました。そして、私たちを後ろから静かに見守るおばあちゃんたちのまなざしがありました。

人間のコミュニケーションの在り方が問われる現代社会の中で、いかに自分の言葉を多くの人々に発信できるか、どのような主張をするかで、人が評価されているような気がします。電話、メール、インターネット、さまざまなマス・メディアの中で、あまりにもたくさんの情報と人間の主張が飛び交っています。その中で、ある人は偶像のように褒めたたえられ、またある人は犯罪人のようにバッシングを受ける。言葉は一人歩きし、海を越えた異国の人たちの感情さえも刺激します。人々のつぶやきは今や国の体制をも変えてしまうほどです。

「母はこれらのことをすべて心に納めていた。」

イエスさまの誕生、その成長を一番近い所で見続けてきたマリアさまは、その心の葛藤を沈黙のうちに受け止めます。喜びの知らせを告げるイエスさまの後ろにはマリアさまの静かなまなざしがありました。

目の前にある出来事に対してあえて何も言わないこと、それを静かに心に納めることの大切さをマリアさまは教えています。人生の荒波の中でも、静かにロザリオの珠をたぐりながら祈るような、素朴な信仰を持つことができたらと思います。

「まつばらこはんにて」
カット・早川 遼さん（南山小・3年生）

「みことばにふれて」カット募集

本紙掲載の「みことばにふれて」のカット（挿し絵）を募集します。「みことば」「祈り」「聖歌」などからイメージしたものを絵画で表現していただき、ふるってご応募ください。

応募いただいた作品を広報委員会で選考し、2013年3月号以降に掲載します。

対　象　小・中学生
締　切　2012年12月20日（木）消印有効
規　格　はがき大～A4サイズ
　　描画材料は自由
発　表　本紙への掲載をもってかえさせていただきます。
その他　住所・氏名・学年・所属教会を記入。応募作品は1人1点までとし、原則返却しません。

提出・問合先
〒852-8113　長崎市上野町10－34
カトリックセンター内　広報委員会
TEL095－843－3869

NPO法人長崎巡礼センター企画
『歩くながさき巡礼』参加者募集
申込締切日：2012年10月26日（金）
参加者多数の場合は事前に締め切ります。

① 野首天主堂、頭ヶ島教会堂、キリシタン洞窟
11月3日（土）～4日（日）1泊2日
11/3　07:20集合、11/4　17:30解散
※集合・解散場所は長崎港ターミナル1階ロビー
定員20人　参加費 21,500円

② 善長谷教会堂、伊王島
11月25日（日）08:45浦上駅集合、15:30伊王島港ターミナル解散
定員40人　参加費 無料
（昼食弁当持参、伊王島⇒大波止間の復路運賃は自己負担）

問い合わせ・申込先（TELまたはFAXでお申し込みください）
① コース　旅行企画・実施 九州商船（株）
(TEL)095-828-3125 (FAX)095-823-2664
長崎県知事登録旅行業第2-46号（社）全国旅行業協会会員 国内旅行業取扱管理者 土屋裕二
② コース　主催 NPO法人長崎巡礼センター
(TEL)095-842-2393 (FAX)095-865-8191

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

(医) 外尾内科医院
院長 ペトロ 外尾明利
〒857-1152 佐世保市黒髪町34－4
TEL0956－33－5557

交通誘導警備　常駐警備　イベント警備
(有) 小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524　FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15　代表取締役 パウロ　小田　睦

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店　長崎市城栄町13-1　電話（095）846-3598
大村店　大村市民霊園内　電話（0957）50-3008